



産学官連携価値創造研究室
Collaborative Value-Creation Research Laboratories

大学生がもたらす地域経済への影響

北見工業大学 産学官連携価値創造研究室
平井 達哉・滝口 英範(マネジメント工学コース所属)

目次

1. 研究背景・目的・目標

2. 研究方法

3. 結果

(1). 各都市における学生の経済貢献度合い

(2). 千人踊りに関するアンケート調査及び
他地域との比較

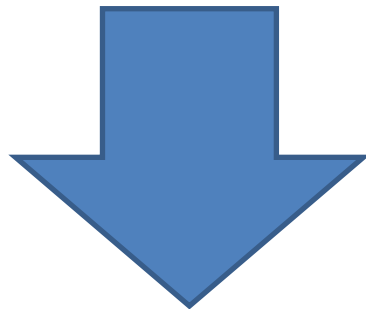
4. 考察

5. まとめ

6. 今後の検討課題

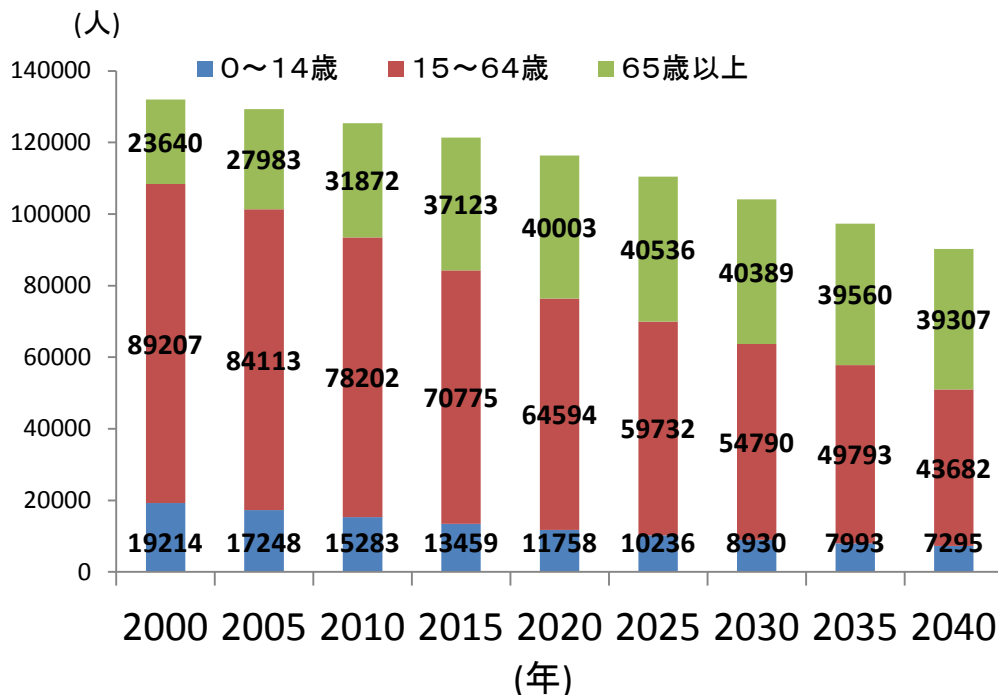
1.研究背景・目的・目標

研究背景：大学は地域との関係を重視

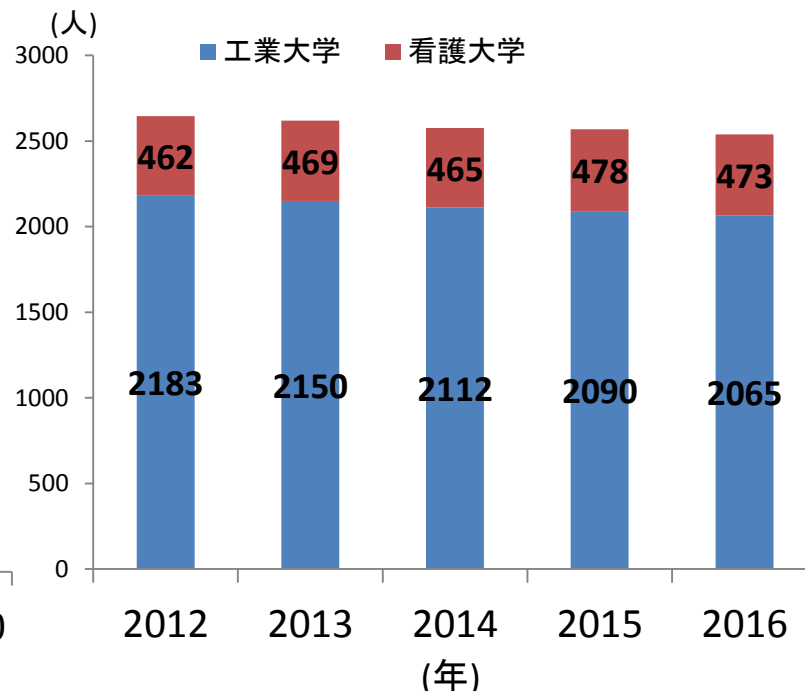


学生が地域との間に持つ繋がりを考えると
地域によっては人口に対する学生比率が
高く、地域経済へ影響を与えている可能性
が高い

1. 研究背景・目的・目標



北見市人口予測推移



2 大学在籍者推移

(北見工業大学、日本赤十字北海道看護大学)

北見市の場合、人口は年々減少しているのに対し、北見工業大学と日本赤十字北海道看護大学の学生数はほぼ一定の在籍者数であることから人口に対する学生数の割合は年々増加していくと考えられる。

1.研究背景・目的・目標

- 目的:
- ・学生割合及び経済効果から見た学生の存在価値を再認識する
 - ・地域経済への学生の関わり方を見出す

- 目標:
- ・学生の人口比率が多い都市及び道内と比較を行い学生が地域経済へ影響を与える可能性を検討
 - ・北見ぼんち祭りを例に他地域と比較・検討

2.研究方法

(1)各地域における学生の経済貢献度合い

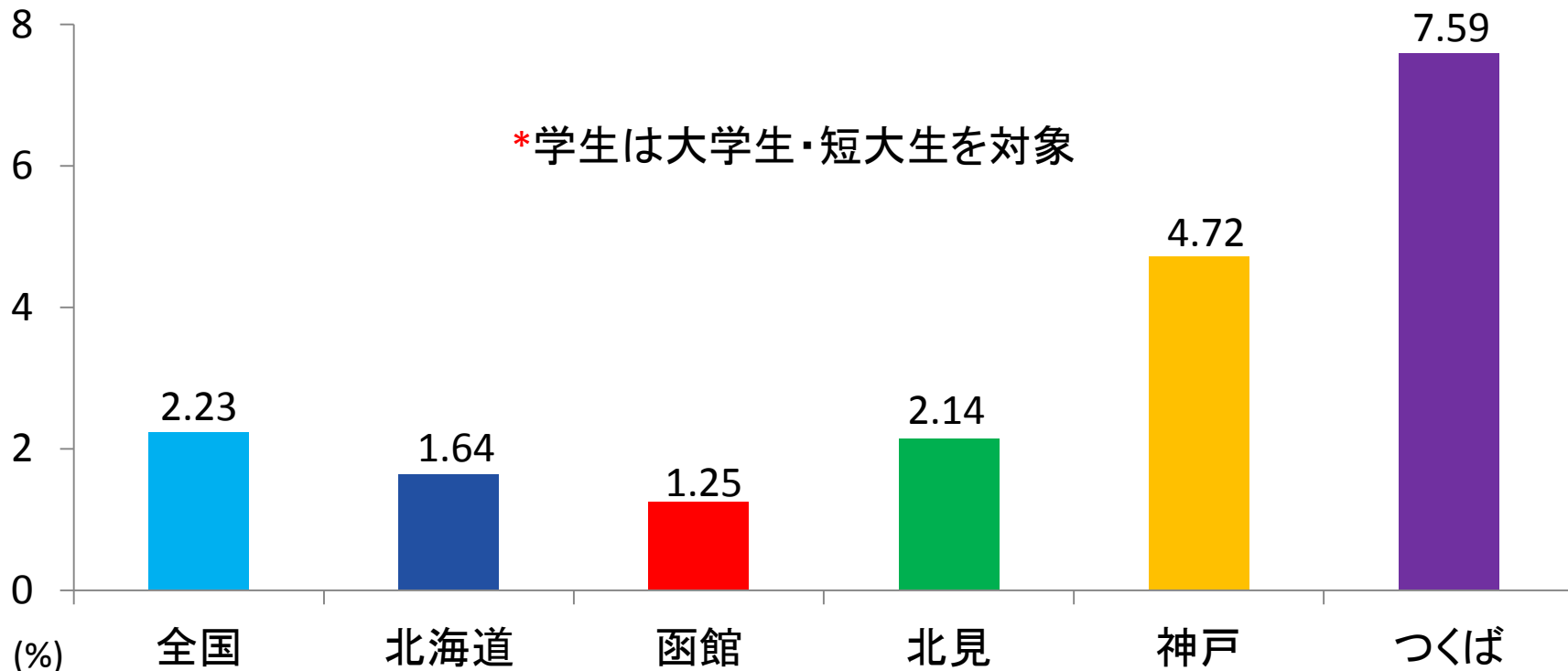
北見市及び他地域との学生による経済貢献度合いを数値化・比較し、北見市の現状を認識する

(2)ぼんち祭りに関するアンケート調査・他地域との比較

千人踊りにボランティアとして参加した北見工業大学生を対象としたアンケート結果より他地域と比較・検討

3.結果

(1)各都市における学生の経済貢献度合い



各都市および全国・北海道の人口に対する学生割合

北見市の学生割合は全国平均で近似、道内では学生割合が高く、学生の寄与は大きいと考えられる一方、神戸やつくばといった主要、学園都市と比較すると低い割合である

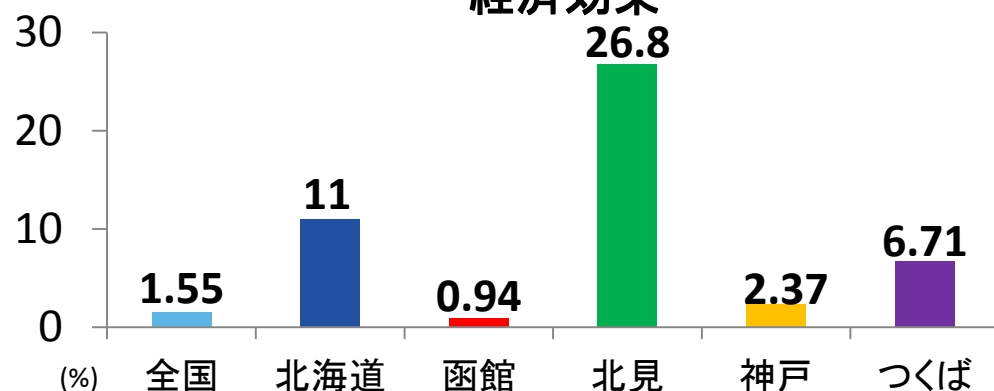
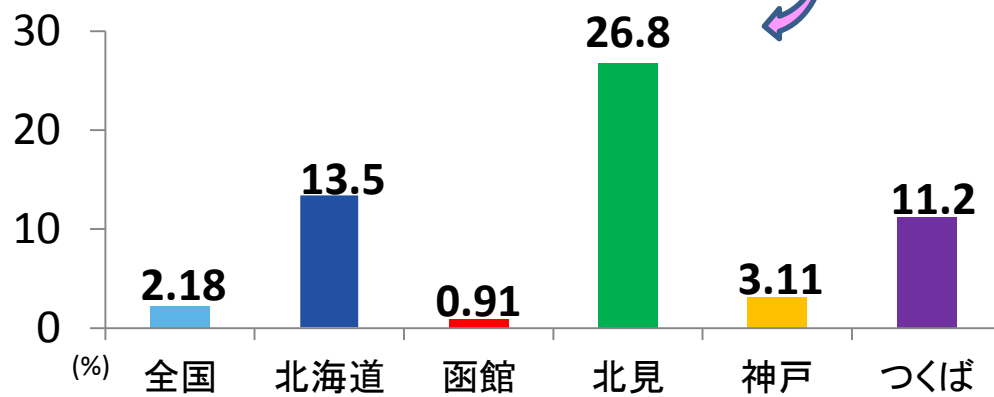
3.結果

各都市および全国・北海道の学生による経済効果の算出式

$$\frac{\text{学生の年間生活費} \times \text{学生数(人)}}{\text{市or道or全国の予算}} \times 100(\%) = \text{学生による経済効果}$$

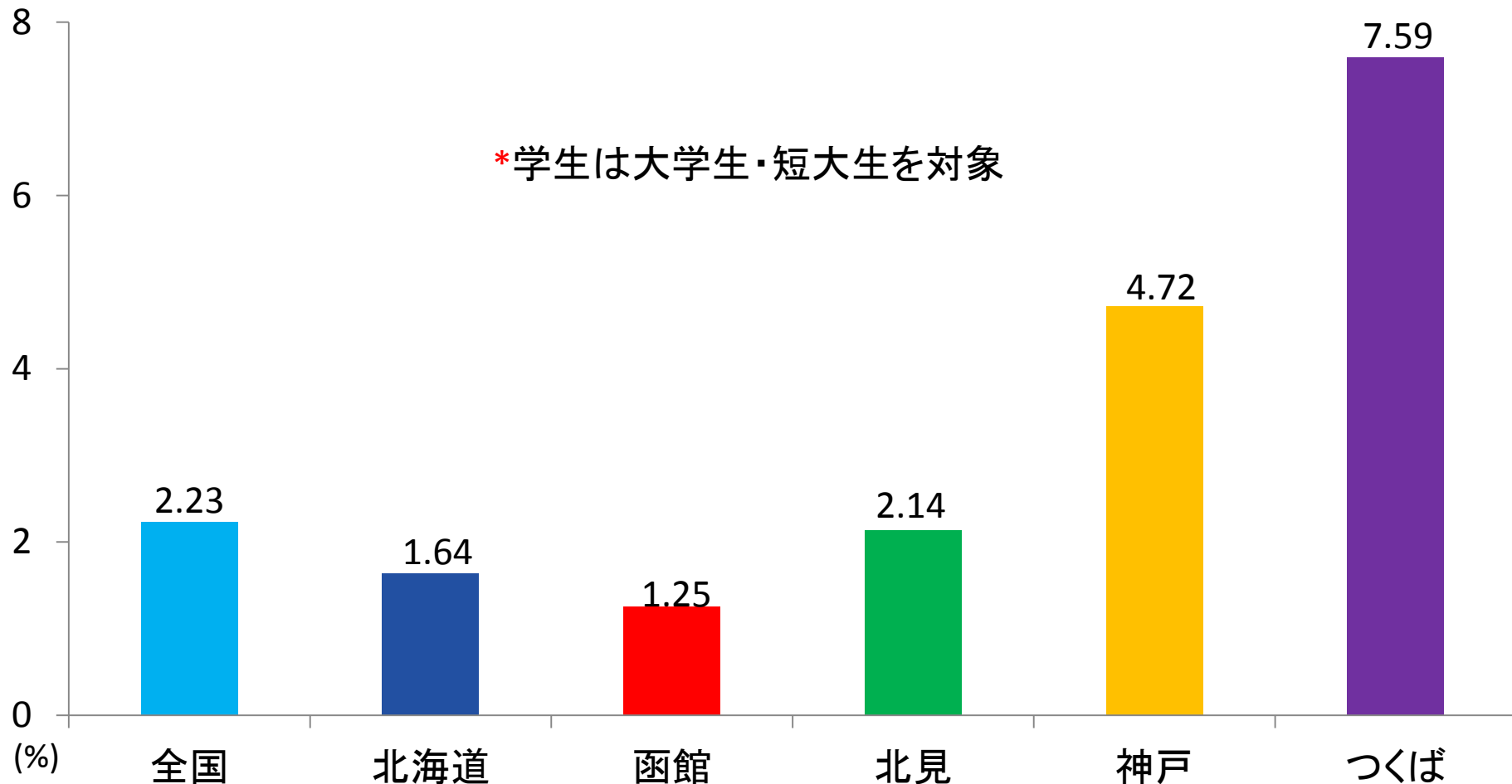
北見の物価と比較

都市	月平均家賃(円)
北見	39,000
全国	55,000(1.41倍)
北海道	48,000(1.23倍)
神戸	51,000(1.31倍)
つくば	65,000(1.67倍)
函館	38,000(0.97倍)



経済効果(北見基準)

3.結果



各都市および全国・北海道の人口に対する学生割合

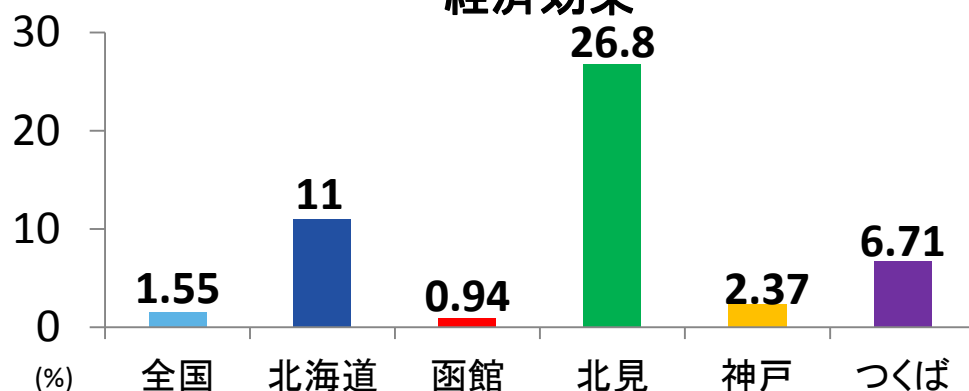
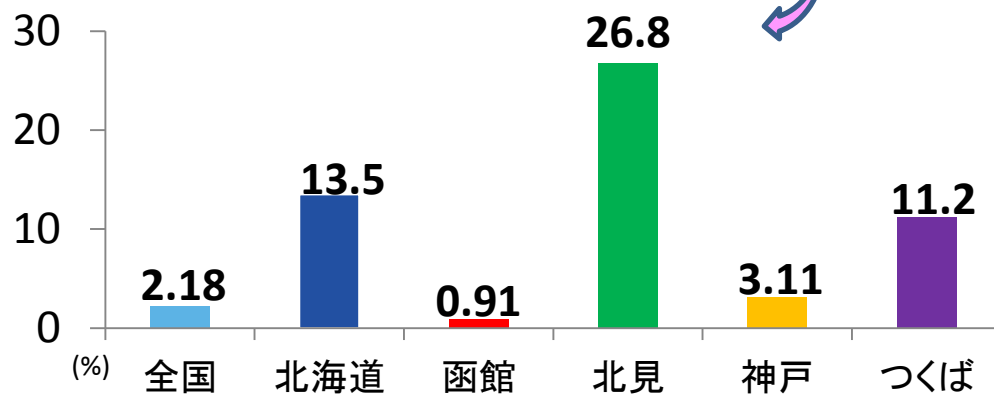
3.結果

各都市および全国・北海道の学生による経済効果の算出式

$$\frac{\text{学生の年間生活費} \times \text{学生数(人)}}{\text{市or道or全国の予算}} \times 100(\%) = \text{学生による経済効果}$$

北見の物価と比較

都市	月平均家賃(円)
北見	39,000
全国	55,000(1.41倍)
北海道	48,000(1.23倍)
神戸	51,000(1.31倍)
つくば	65,000(1.67倍)
函館	38,000(0.97倍)



経済効果(北見基準)

3.結果

(2)ぼんち祭り(千人踊り)に関するアンケート調査・ 他地域との比較

参加人数 127人(アンケート回答者数73人=N*)
回答率:59%

設問及び回答(抜粋)

Q1.来年度も参加したいと感じたか

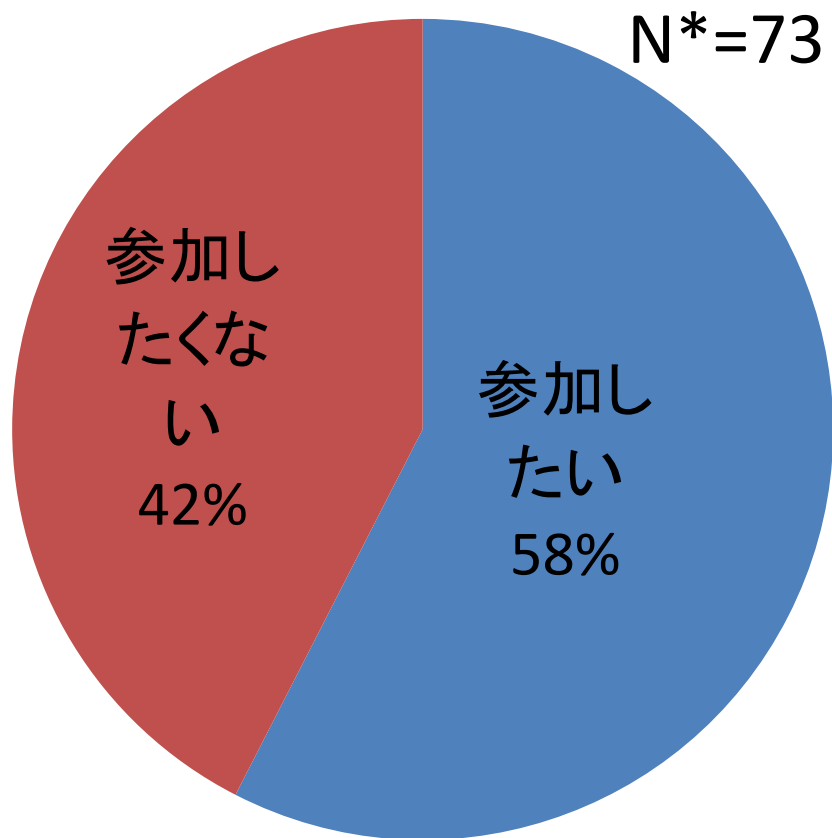
A1.参加したいという学生数 42人/73人

Q2.千人踊り参加後街に残り飲食をするか

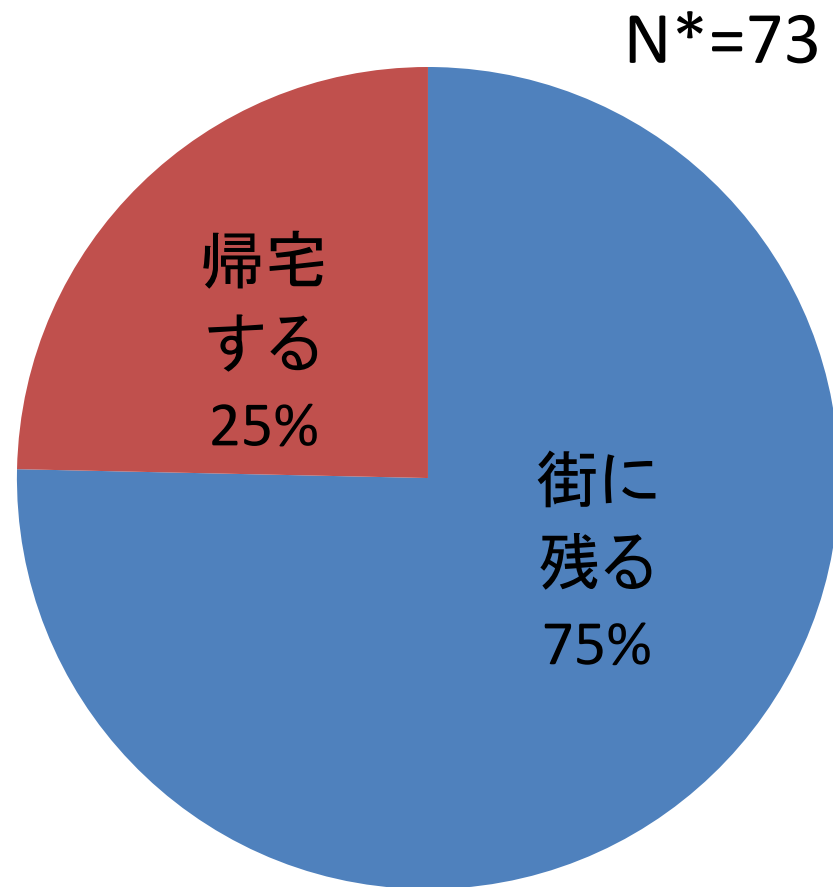
A2.街に残る学生数 55人(=N**)/73人

3.結果

次年度以降の参加意欲

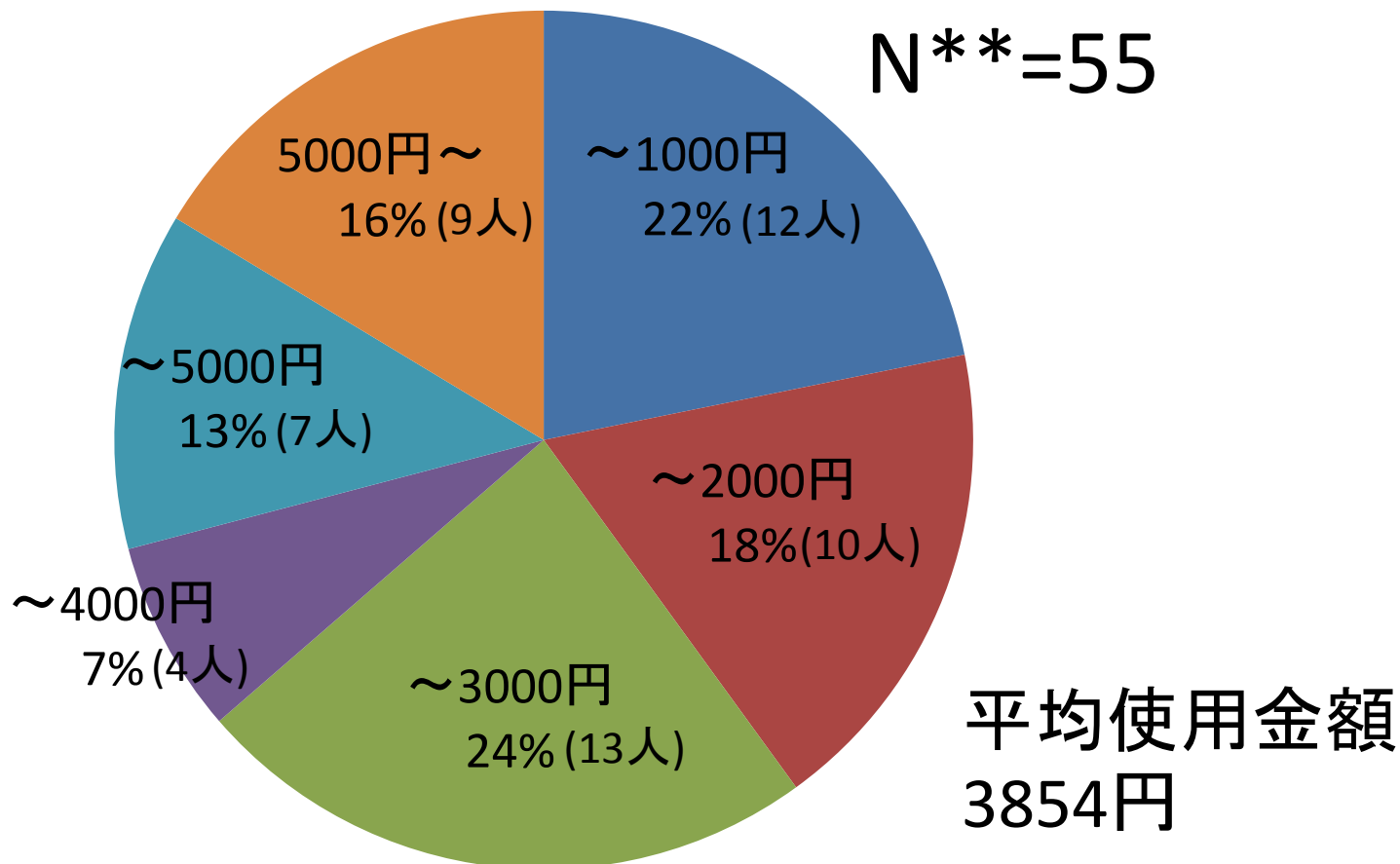


千人踊り終了後 街に残るか



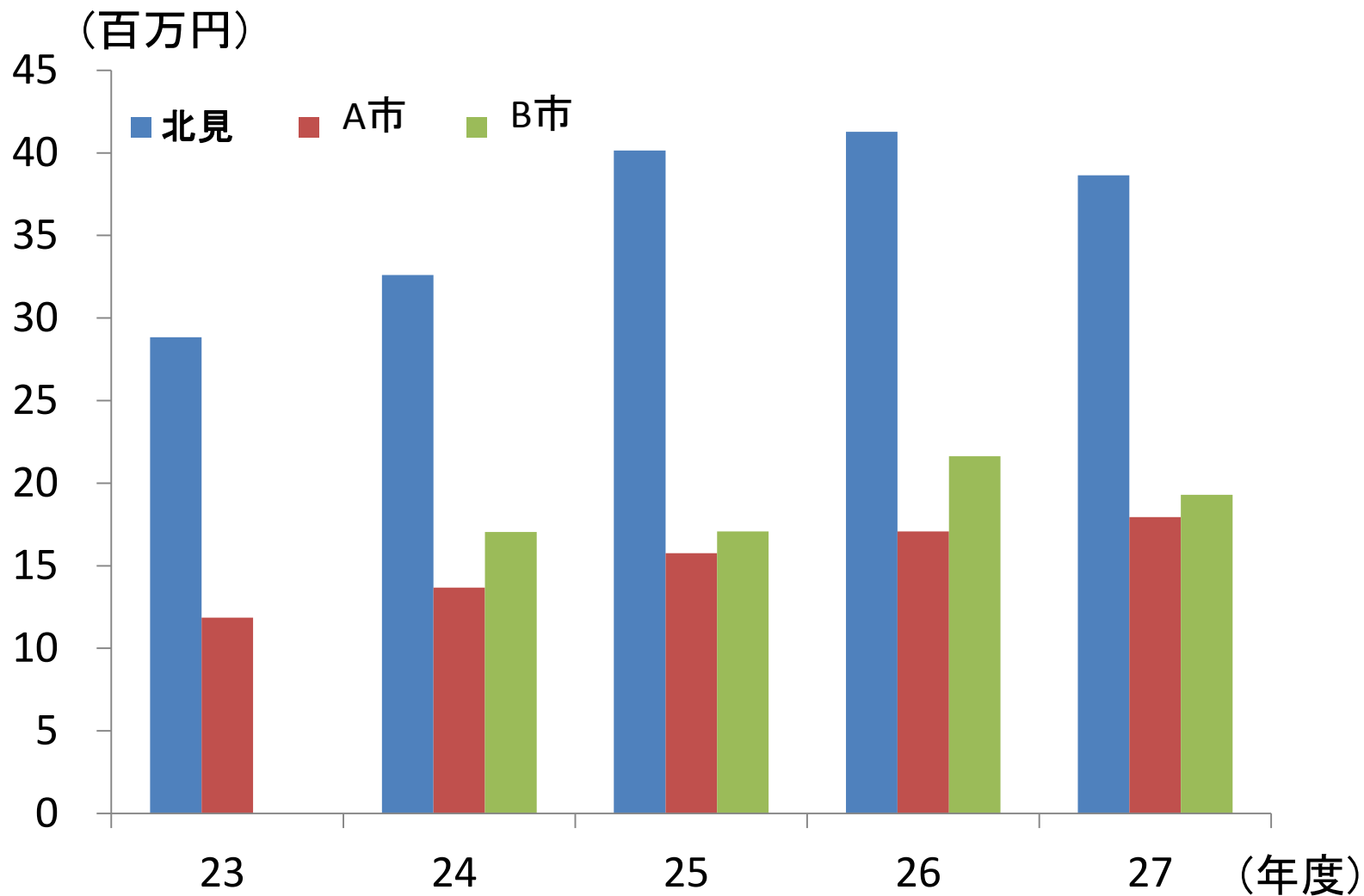
3.結果

使用予定金額



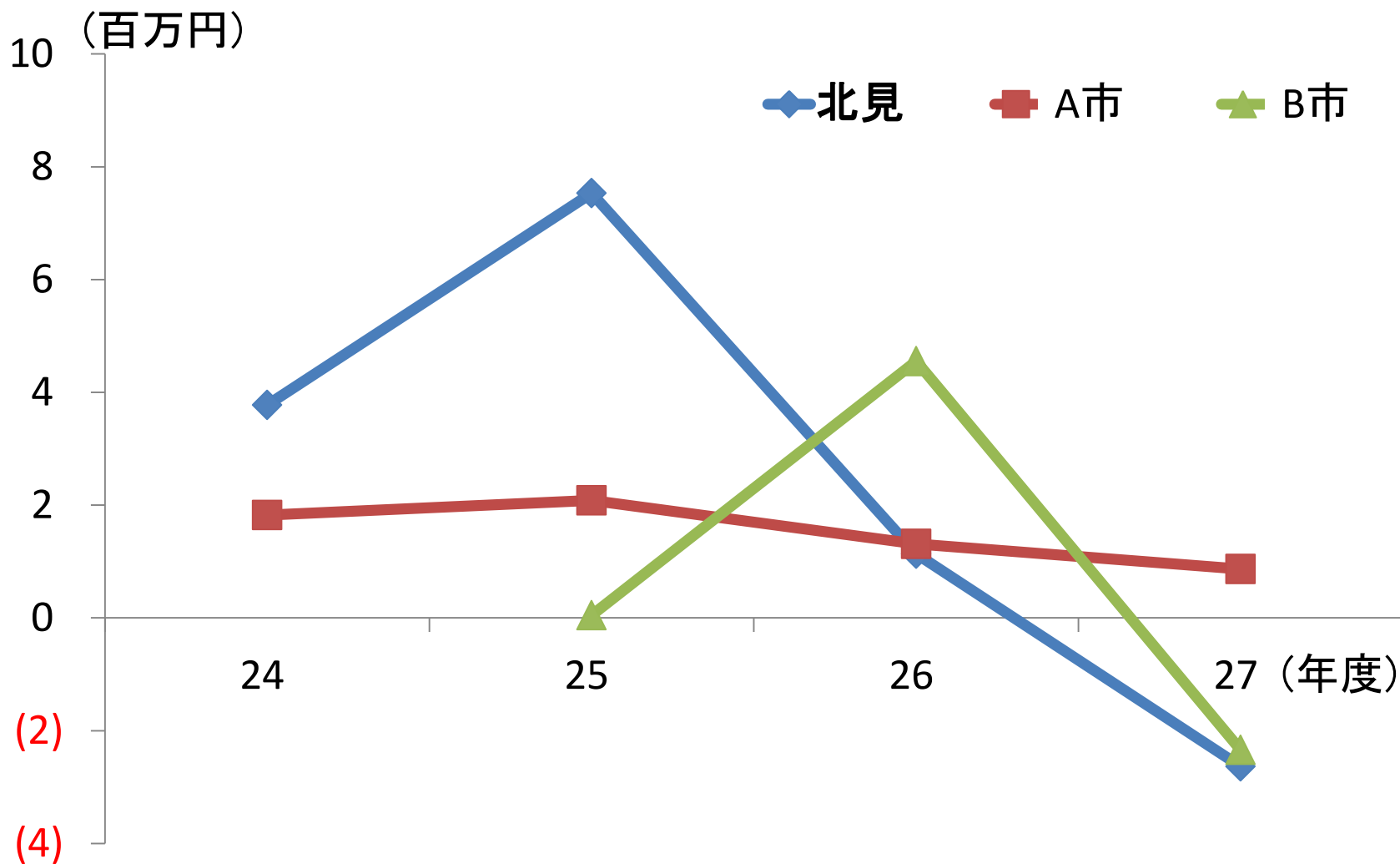
千人踊り終了後の学生の使用金額比率

3.結果



北見、A市、B市の祭りにおける収支決算

3.結果



収支決算の前年度差グラフ

3.結果

一人あたりの平均使用金額 3,854円

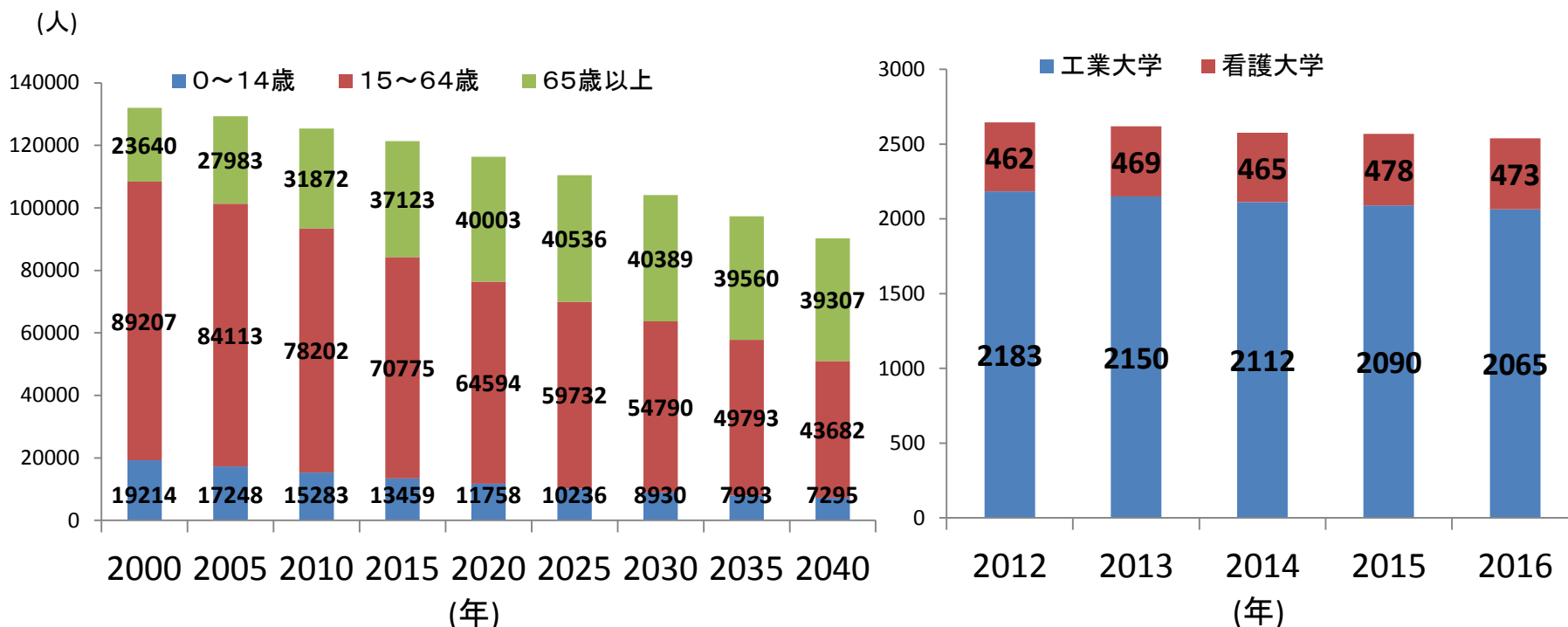
北見市内に存在する大学の総学生数:2538人
(平成28年度現在)

全大学生の7割が一回の祭りにこの金額を使用
すると仮定した場合

$$3,854(\text{円}) \times 2,538(\text{人}) \times 0.7 = 6,848,558(\text{円})$$

およそ700万円の収入に繋がる

1.研究背景・目的・目標



北見市人口推移

2大学在籍者推移

(北見工業大学、日本赤十字北海道看護)

北見市の場合、人口は年々減少しているのに対し、北見工業大学と日本赤十字北海道看護大学の学生数はほぼ一定の在籍者数であることから人口に対する学生数の割合は年々増加していくと考えられる。

3.結果

一人あたりの平均使用金額 3,854円

北見市内に存在する大学の総学生数:2538人
(平成28年度現在)

全大学生の7割が一回の祭りにこの金額を使用
すると仮定した場合

$$3,854(\text{円}) \times 1,777(\text{人}) \times 0.7 = 6,848,558(\text{円})$$

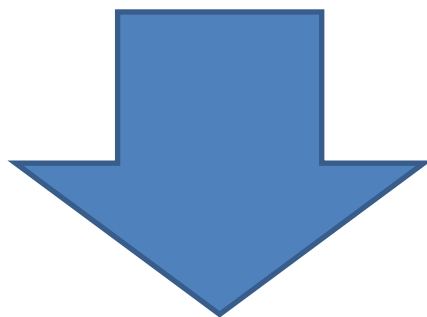
およそ700万円の収入に繋がる

4. 考察

- 予算の減少=祭りへの関心が低下
- 運営側は、学生により多くのお金を使ってもらうことが望ましいとの回答
- 北見市は他地域と比べ地域経済への学生寄与が高いと考えられることから、使用金額増加により、祭りの衰退及び廃止という結果を止めることができる可能性が大いに高まる

4. 考察

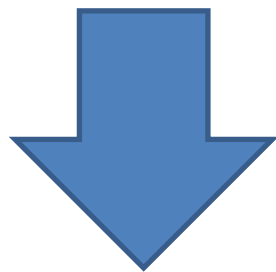
学生数の大きな減少は廃校等の理由がなければ考えずらい



安定した収入が見込め、地域活性化及び地域経済の影響の面から見ても学生の存在意義は大きいと言える

5.まとめ

- ・経済効果から見てイベントには学生が必要
- ・結果(2)のアンケートで街に残らないと回答した学生の大半が交通手段の無さ、街への抵抗があると回答



行政・大学が改善することで経済効果へと繋がる可能性が高い

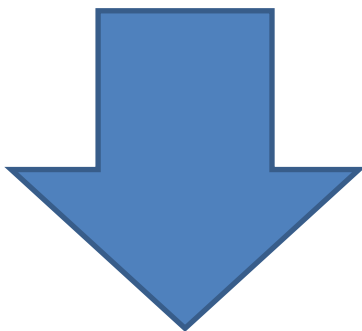
5.まとめ



引用: GoogleMap

6. 今後の検討課題

北見市東側且つ大学からアクセスが便利な場所に小樽市のウイングベイや北ーガラスのような商業兼公共施設を建設する



学生にとっての利便性を高め、学生の市街地活用を促しさらなる経済効果への寄与を図る